

株式会社 アピア 御中

報 告 書

平成 22 年 4 月 26 日

試験の名称：アピザスOK・W製剤の抗ネコカリシウイルス効果試験

特定非営利活動法人 バイオメディカルサイエンス研究会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-28-3 工新ビル 801号

TEL : 03-3200-6752 FAX : 03-3200-5206



試験の名称： アピザスOK・W製剤の抗ネコカリシウイルス効果試験

依頼者：株式会社 アピア

受託者：NPO 法人 バイオメディカルサイエンス研究会
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-28-3 工新ビル 801 号
Tel：03-3200-6752 Fax：03-3200-5206

試験主任者：NPO 法人 バイオメディカルサイエンス研究会
常任理事 吉澤重克

試験補助者：大久保 梢

試験実施施設：NPO 法人 バイオメディカルサイエンス研究会
BMSA・環文研共用実験室
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 1-12-3
Tel：047-451-2419 Fax：047-451-2439

資料の保管場所：NPO バイオメディカルサイエンス研究会

報告書作成日：平成 22 年 4 月 26 日

報告書作成者：NPO バイオメディカルサイエンス研究会
常任理事 吉澤重克

II スプレー製品の抗ネコカリシウイルス効果試験

目的：アピザス OK・W を用いて抗ネコカリシウイルス作用を調べる。

材料：

ネコカリシウイルス F9 株

細胞：C r F K

噴霧器：アーンシュット（キートロン製）

被験液：3 月 25 日受け取りのアピザス OK・W

方法

噴霧法

- ① 5 0 mm 角の不織布（HOGY マスク） 4 枚に 0.25mL のウイルスをアーンシュットで 1 0 c m の距離から噴霧する。
- ② これを低湿度（約 10~20%）で 1 時間乾燥する。
- ③ 2 枚の不織布に被験液を 2 回スプレーする。また対照として 2 枚に蒸留水を 2 回スプレーする。
- ④ 1 時間通常の状態（特に乾燥することなくシャーレ内に保ち）室温 1 時間静置する。
- ⑤ MEM 8 mL の入った遠心管にそれぞれを入れ 1 分間ヴォルテックスでミックス後その上清の感染価を測定する。

感染価測定：標準的なブラックアセイ法で行う。

成績：成績を下表にします。ウイルスをスプレーして乾燥させた不織布に蒸留水をスプレーしたものは、約 3×10^4 PFU と大量のウイルスが検出されたのに対し（写真—1）、検体をスプレーした不織布は全くウイルスが検出されなかった（写真—2）。

噴霧法

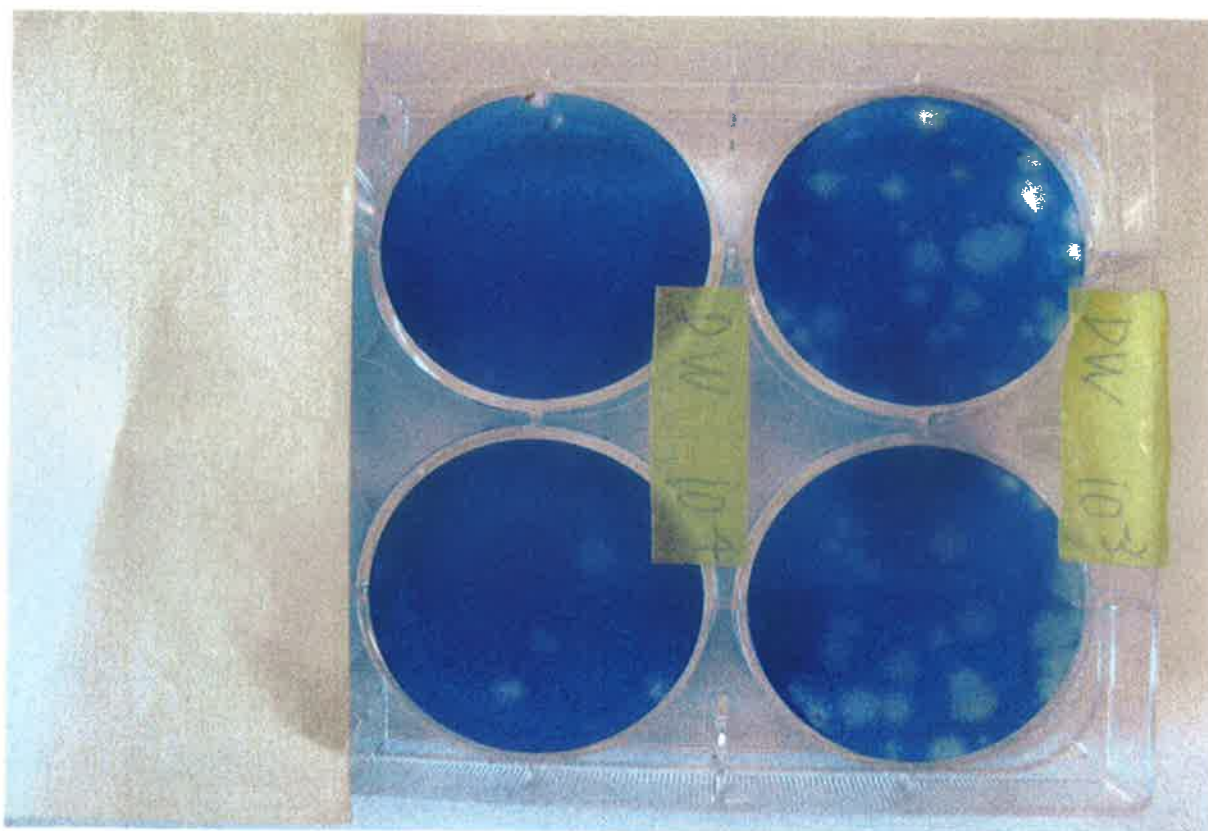
被験対象物	ラベル	感染価（PFU／0.1mL）	備考
被験液	S 1	$<10^0$	
	S 2	$<10^0$	
対照蒸留水	D 1	3.1×10^4	
	D 2	3.2×10^4	

考察：本試験で用いられた試験液アピザス OK・W はネコカリシウイルスを効率よく不活化した。ウイルスを不織布にあらかじめ噴霧・乾燥し、それに試験液を作用させるということは、ある程度現実によくしているものと考え。即ち実際には、ノロウイルスに感染した患者は、嘔吐や下痢をとおしてウイルスを撒き散らし、それが、自然乾燥した後、それに対して噴霧した試験液が効果あるということは現実的にありそうなことである。ネコカリシウイルス（ノロウイルスも同様）は自然乾燥に抵抗が強く、不織布では長い間生存しており、床やじゅうたんなどに長期間生残していることを考えると、意義があるものと考え。

また本検体のアピザス OK・W は細胞毒性が認められなかった（写真-2 参照）。

- 結論：**1 本試験に用いられたアピザス OK・W は感染価が 10^4 PFU 以上あるネコカリシウイルスが検出できなくなるほど効果が認められたことから、ネコカリシウイルスに対して著しい不活化効果が認められるものと期待される。
- 2 本製剤は細胞に対する毒性は認められなかったことから安全性においても問題はないと考えられる。

以上



写真—1（对照）



写真—2（検体）